

平成 24 年度子ども支援学専攻卒論発表会開催！

教授 中原美恵

去る 1 月 30 日、子ども支援学専攻第 1 期生
による卒論発表会が開催されました。

発表された卒論のテーマは、次の通りです。

- ①大学生の里親制度を巡る認識と関心に関する調査研究
- ②裸足保育による発達の効果に関する観察研究
- ③同一年齢における観察学習による遊びの学習
- ④ごっこ遊びを豊かにするモノの役割
- ⑤保育者養成校で学ぶ学生の子育て観
- ⑥絵本「ぐりとぐら」の魅力を探る
- ⑦不登校対策の現状と課題



子ども支援学専攻には、11 のゼミがあります。三年生から希望するゼミに所属し、さまざまな研究に取り組んでいきます。四年生になると、6月に教育実習（幼稚園）があり、夏休みには、3回目の保育実習、そして就職活動も本番の時期を迎えます。何とか時間をやり繰りしながら、調査やフィールドワーク、文献研究に取り組み、卒論を書き上げます。

保育園に通い、膨大な観察データを収集し、それを分析した学生もいます。何十冊もの文献から関連データを拾いだし、コツコツと整理した学生もいます。ですから、「ここまでやれる自分があるなんて…すごい発見だった。自信がついた。」と、みな胸を張ります。

卒論発表会に臨んだ7名も、そんな誇らしさが感じられる堂々とした姿でした。大学四年間の成長は、ほんとうに大きいです。発表会には、四年生、三年生に加え、4月からゼミに所属する二年生も参加していました。そうした四年生の凛々しい姿に刺激され、後輩たちもきっとチャレンジしていくことでしょう。研究のバトンがしっかりと渡されていきました。

